

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ意見まとめ

地区	蒲郡南地区	回数	第3回
日時	平成30年10月7日(日) 午後1時30分～午後4時30分		
会場	蒲郡中学校 図書室	参加者数	25名

1. 再配置プラン案に対する意見

1) 全案共通

学校区と行政区の不整合により、地域のお祭りがあっても地域の学校に通学していないことで参加できなかつたり、大人が見守りをする際に、通学中の児童がどこの小学校に通っているかわからなかつたりするため、地域と学校の人間関係の枠組みは同じであってほしい。

- ・ 学校区と行政区は合わせていくのが良いと思う。地域のお祭りがあっても「学校が違うから」という理由で参加できない現状もあるので、学校の人間関係と地域の人間関係がずれているのは解消すべきである。
- ・ 地域で通学中の児童の見守りなどを行う際にも、どこの小学校に通っている児童なのかわからず困ることがある。地域と学校で声掛けをする児童が異なるのは、関わる大人としても困惑するので、学校区と行政区は同じ方が良い。

竹島小学校ができて数十年が経過し、竹島小へ通学した保護者もいて愛着も生まれているようだ。一度、地域に根付いた学校区を元に戻すのは難しいだろう。いずれにせよ当事者が判断すべきだ。

- ・ 小学校区は地域の様々な行催事などに関連している。一度地域に根付いた現在の学校区を変えるのは難しいと思う。
- ・ 既に竹島小学校ができて数十年がたち、親も竹島小学校に通っている。竹島小学校への愛着も生まれているし、三谷地区に戻りたくないという人の声も聴くので、当事者が判断しないと、外の人間ではわからないし、判断もできない。

三谷小学校区と竹島小学校区のように、学校区と行政区がちぐはぐなエリアを元の学校区に戻すことで、その不整合を解消するかどうかについては、変更することで影響を受けるであろう住民やその子ども、また、三谷の歴史を大切にしたい方などの関係ある方々の意見を聞く必要がある。さらに、その際は記録を残してほしい。

- ・ 学校区と行政区の不整合の解消によって竹島小学校の児童が減ってしまっても致し方なく、三谷小学校に戻るかどうかの判断は当事者が決めることだと思う。外部の人間が決めることではない。
- ・ 三谷小学校と竹島小学校の学校区の変更に関しては、当時の記録がないため、経緯がわからない状況にある。もし、元の学校区域に変更をする必要があるならば、変更の影響を受けるであろう住民やその子ども、また、三谷の歴史を大切にしたい方などの関係あ

る方々が話し合いの場を設けるなど、意見を聞く必要がある。さらに、その際の記録は残すべきである。

小学校を統合するかしないかを検討するのであれば、統合した場合は費用がどの程度削減できるかなど、統合することでのメリット、デメリットを確認した上で検討をしたい。

- ・ 小学校統合のメリット・デメリットを知りたい。他市の事例でもよい。デメリットが強調されがちだが、メリットも何かあるはず。
- ・ 統合か存続かを判断するには、統合したときにどれだけコストが削減できるのか、そのメリットを分析したうえで検討が必要。
- ・ 3つの小学校を2校に統合する案については、3校のままにすることでどの程度の将来負担が増えるのか金額を知ったうえで判断したい。

南部小学校、竹島小学校のどちらの小学校に統合するか、また、統合をしないかについては、ワークショップの参加者のみで決めることではない。直接関係のあるご家庭や、今後影響があるご家庭の意向、また、小学校PTA、教職員等、当事者の意見を聞くべきである。その結果を尊重しながら検討していきたい。

- ・ 竹島小学校と南部小学校をどちらかに統合するか、またこのままでよいのか、という議論については、三谷地区内の児童で竹島小学校に通学している児童や保護者、あるいは今後通う可能性がある保護者の考えも含めて検討した方がよいのではないかと。自分たちだけの意見で決めることがないようにしてほしい。どこかの時点でそのご家庭の意向を聞いてもらい、その結果を尊重しながら検討していきたい。
- ・ 統合については、竹島小学校ができる際に三谷小学校や東部小学校から竹島小学校へ移った地域の住民の意見も聞くべきだと思う。
- ・ 竹島小学校ができた時も、小学生を持つ親の意見は距離が近い小学校へ通わせたいという意見が多かった（例えば、府相町も2つに分かれた）。今回も同様の意見が強いと思う。
- ・ 現在の小学校PTAや現場の教職員など、直接の当事者の意向を知りたい。

小学校の統合や蒲郡南地区の学校規模の検討については、蒲郡南地区の人口動向など未知の事柄も多く、早急に判断しない方がよいのではないかと。校舎を長寿命化して維持しながら、児童数の減少が現実的になった時に検討することでよいと思う。

- ・ 学校規模については、人口動向など未知の事柄も多く、早急に判断しない方がよいのではないかと。児童数の減少が現実的になったときに検討するのが良いだろう。
- ・ 存続の場合も、建て直しではなく校舎の長寿命化によって維持する方策も検討してもよいのではないかと。そのうえで児童数が減少したときに統合の検討をするのが良い。

小・中学校の統合については、授業の質や学習環境を保つために、1学年1クラスが維

持できなくなることが判断の目安になるのではないか。また、部活動が存続できなくなるかどうかひとつの判断材料になるが、部活動は、ソフト面での工夫により継続させる方策も考えられる。

- ・ 複式学級では授業の質や子どもの学習環境として課題が生じると思われるので「1学年1クラス」が維持できなくなる時が、統合を考えるひとつの目安になるのではないか。ただし、それも児童の親が判断すればよいことで、外の人間が判断することではないと思う。
- ・ 部活動が減ってきている現状もあり、中学校の統合を考える際にはクラス数だけでなく部活動が続けられるかどうか、もうひとつの目安になるかもしれない。ただし、部活動の継続はソフト面のことでもあるので、学校統合以外の解決策も考えられると思う。

施設を統合する際、一度に全ての施設を壊すのではなく、体育館やプールなどの施設は、長寿命化をして利用できる状態を維持しながら段階的に進めてほしい。

- ・ 一度に全ての施設を壊してしまうのではなく、体育館やプールなどの施設は長寿命化を検討し、利用できる状態で利用しながら、徐々に統合などの事業を進めるべきである。

統合に合わせて、安全性に配慮した通学路の検討が必要になる。必要に応じて道路を拡幅するなどインフラの整備も検討しながら進めてほしい。

- ・ 統合に合わせて、通学路の再検討が必要となる。安全性に配慮し、必要に応じて道路幅員を拡張するなどのインフラ整備も検討していく必要がある。

小学校の統合が決まった場合、途中で転校することで不便が生じないように、その時点で新入生になる児童は統合先に入学できるようにしてほしい。また、統合されてしまう学校に通学している児童については、卒業まで通学している学校で過ごせるように配慮してほしい。

- ・ 転校が発生しないように、統合が決まった年度からは新入生を統合先に入学するようにし、統合によりなくなる小学校は、新入生は入らないが通っている子供は卒業まで同じ学校で過ごせるようにするなどの配慮が必要である。

本当の意味で配置の適正化を図るのであれば、蒲郡中学校と中部中学校を含む旧蒲郡町の広い区域で検討すべきである。

- ・ 本当の意味で配置の適正化を図るのであれば、蒲郡中学校と中部中学校を含む旧蒲郡町の区域で検討すべきである。

東部地域は、蒲郡南地区のなかでもひとつのコミュニティ、地域として成立しているために、東部保育園を別の小学校区に移すのは得策ではない。東部保育園、東部小学校、東部公民館は東部地域に機能を集合した方が馴染むと思う。

- ・ 東部地域は、蒲郡南地区のなかでもひとつのコミュニティ、地域として成立しているために、A案のように東部保育園の学校区は変えない方がよいだろう。B～D案のように東部地域で機能を集合した方が馴染むと思う。

小江地区は、かつては蒲郡の中心地であったこともあり、地域活動が盛んで地区への愛着も強い。お祭りや敬老会のことなどを考えると、公民館を廃止したり集会所としての機能しか残らないということは避けたい。

- ・ 小江地区は昔は蒲郡の中心地だったことから、地域活動が盛んで住民の愛着は強い。お祭りや敬老会などで公民館が必要と考えているため、廃止されたり、地区の集会所に位置づけられることは避けたい。

小江公民館は神社前の立地であることから、お祭りの時に利用されている。また、日頃は高齢者をはじめとした地域の集いの場としても利用されている。そのため、現在の場所にあることと日頃から高齢者が歩いて行ける距離にあることが重要である。市が公民館として維持できなくなったとしても、地元管理で集会所として維持していく方法で現在の場所に残していくことが望ましい。

- ・ 小江公民館は地域の集まるスペースにもなっており、神社の前という立地でお祭り時も使用している。そのことを考えると、現在の場所になくってはならないので、もし、公民館機能がなくなったとしても、人が集まる場としての集会所の機能は維持していく方を地区内で考えていきたい。
- ・ 現在の小江公民館は高齢者の利用が多いことから、歩いていける距離に集会所機能があることは重要である。公民館として市が維持できなくとも、地元管理で維持していく方針が好ましい。

現在の公民館の建物がお祭りの時に集合場所としてなどの利用を継続することができるのであれば、公民館の機能は南部小学校の敷地に移転するのでも構わない。

- ・ お祭りの集合場所などが小江地区内に確保されるのであれば、小江公民館の機能を南部小学校敷地に集合することは地元の人は問題ないと思う。
- ・ 地元での施設維持が難しい場合は、現在も協力して活動している南部小学校への機能移転の可能性もある。

小江公民館が集会所として地域に譲渡されるか否かについては、市が耐震状況や自主運営になった際の運営費用について地区へ示した上で、小江地区の住民で決めてほしい。また、その結果、耐震補強が必要であったり、地区の自主運営が難しい時は、市が相談に乗り一緒に検討してあげてほしい。

- ・ 小江公民館は、公民館機能をなくす方針があるにしても、耐震状況を確認し、あとの程度建物がもつのかを把握しないと、小江住民は集会所とするのかどうか判断できないのではないかと。耐震補強ができていない場合は、市が補強まではした上で住民に譲渡

してあげてほしい。

- ・ 小江公民館が集会所になる場合は、どの程度、地域負担がかかるのか市は示してあげてほしい。その上で、地域に判断してもらい、経費的に地域での運営が難しいとなった時は、再度、市が相談に乗るくらいのことはしてあげてほしい。

小江公民館を今後どうするかについては、小江地区の住民の意向を大切にしてほしいので意見を聞く場を設けてほしい。また、管理を地元に移行する場合は、運営体制や費用の準備が必要なため、地元でじっくり議論する場が必要だ。

- ・ 小江公民館は、府相公民館と一緒にしようと検討した際も断念した経緯がある。そのような背景があることを踏まえると、小江公民館の今後のあり方は、この場だけで方針を決めるのではなく、小江の地域住民の意向を大切にしてほしい。
- ・ 小江公民館の将来は小江地区の住民を中心に判断していくのがよい。そのような機会は設けてもらえるのか。
- ・ 小江公民館の将来は小江地区の住民を中心に判断していくのがよいと思う。この場だけの判断で方針を決めないようにしてほしい。
- ・ 地元管理に移行するには、運営体制や金銭面などの準備が必要となるため、地元でじっくり議論をする必要がある。

小学校と公民館の機能を集合する方針になっているが、そもそも公民館は必要なのだろうか。利用率が低い公民館は、廃止を検討し、身近な集会所を充実させ、高齢者の利用を促す方がよいのではないかと。高齢者にとっては、徒歩圏内に集える場所があることは大切である。

- ・ いずれの案にしても、公民館が小学校に複合化することになっているが、そもそも公民館は必要なのだろうか。必要性も考慮した上で利用率が低いものについては、残すものと、廃止するものを検討してもよいのではないかと。現状では3つの公民館を残す案になっているが、必ずしも3つを残す必要はないかもしれない。
- ・ 公民館を廃止して、地区集会所を充実させることも検討してよいのではないかと。高齢者の利用促進を考えると、徒歩圏内に集まれる場所を維持することが大切である。

小学校と保育園の機能を集合するのであれば、児童の勉強の妨げにならぬよう、騒音の問題などは十分に配慮した配置にするなど、工夫して進めてほしい。

- ・ 小学校と保育園の機能を集合するのであれば、小学生児童たちの勉強の妨げにならぬよう、騒音の問題などは十分に配慮した上で進めてほしい。

子育ての視点で考えるならば、保育園、小学校、児童クラブは保護者の送迎の手間を考えても、同じ敷地や近所にある方がよい。

- ・ 子育て環境の充実を考えるならば、保育園と小学校、児童クラブは保護者の送迎の手間を考えても、同じ場所にある方がよい。

南部小学校周辺は一方通行が多く、道幅も狭い。複合化などで更に利用者が増え、車の交通量も増加するようであれば、通学路の確保も含め、安全面の配慮が必要である。

- ・ 南部小学校周辺は一方通行も多く、道幅も狭い。複合化などで更に利用者、車が増えるようであれば、通学路の確保も含め、安全性への配慮が必要である。

小学校の従来の通学距離の基準は4km以内となつてはいるが、通学距離が長いと、その分、危険を伴うことになる。昨今の事件や道路事情などを考えると、小学校は、それぞれの自宅から徒歩圏内でできるだけ近い場所にある方がよい。

- ・ 小学校は半径4km内となっているが、昨今の事件や道路事情などを考えると、距離が長い分危険も伴う。小学校は徒歩で通える近い場所にある方がよい。

保育園については車で送迎している保護者が多く、立地よりは設備やサービスを重視して選択しているようだ。車利用が多いため、整備された道路や大きな駐車場が必要となる。複数の保育園に分散するよりは、小学校跡地などある程度敷地面積のある場所に保育園を集約した方が、車で利用しやすく効率的であるため良いと思う。

- ・ 保育園は多くの利用者が車で送迎をしており、建築年数が浅い南部保育園の状況から察するに、保護者も設備やサービスが優れている保育園を自由に選択しているようだ。そのため、保育園を検討する際には立地はあまり重要ではなく、施設とサービスの充実のほか、車で利用可能な整備された道路と大きな駐車場等、設備が重要となる。
- ・ 保育園の施設や駐車場の充実のためには、広い敷地面積が必要となる。また、サービスの集約による効率化なども必要なため、複数の保育園を小学校跡地などの面積のある場所に集約すべきである。

府相保育園は高潮浸水想定域に位置することから、安全面を考えるとできるだけ早くに移転した方がよい。

- ・ 府相保育園は高潮浸水想定域にもあるし、できるだけ早く移転するのがよい。

南部小学校に施設を複合化するのであれば、隣接する“生きがいセンター”を他の場所に移転させれば、校庭や駐車場等として敷地をより広く活用できるのではないかと。

- ・ 南部小学校に隣接する「生きがいセンター」を他の場所に移転させることで、小学校の敷地がより広くなり、校庭や駐車場、(他の施設を複合化させる場合は)その施設の敷地をより広く確保することができるのではないかと。

2) A案

【期待】

竹島小学校が南部小学校へ統合されたら、竹島小学校跡地を有効活用することができる。保育園、公民館機能を集合させる際、十分な駐車場を整備することができる。

う。さらに言えば、“+α”で子育て支援につながる機能を入れることができないだろうか。また、校舎をそのまま利用できるのであれば、コスト削減にもつながり合理的だろう。

- ・ 竹島小学校が南部小学校へ統合されたら、竹島小学校跡地を有効活用することができると思う。特に、保育園、公民館機能を集合させるのであれば駐車場は必要になるが、駐車場は整備することができるだろう。さらに+αで子育て支援につながる機能を入れることができないだろうか。
- ・ 統合で竹島小の校舎が空くならば、公民館や保育園などで空き校舎を有効活用すると合理的でコスト削減になると思う。

小学校と児童クラブは、同じ敷地にある方が子どもの移動の負担もないのでよい。

- ・ 児童クラブと小学校が同じ場所で行われる方が、子どもの移動の負担もないので良い。

小学校の統合は、公共施設面積の縮減の観点や部活動などの教育環境維持の観点からも必要なことである。まちの歴史を鑑みると、より歴史がある南部小学校に統合することが自然だと思うが、あくまでも判断基準のひとつではある。

- ・ 小学校の統合は、公共施設面積の縮減の観点や部活動などの教育環境維持の観点からも必要なことである。まちの歴史を鑑みると、歴史の深い南部小学校に統合することが自然であると言える。ただし、まち歴史は判断基準のひとつであるため、竹島小学校への統合を否定するものではない。

【懸念】

前提条件であったように、府相公民館が竹島小学校の敷地へ移設し建て替わり、小学校としても機能が残ることで、今後の公共施設の再編のモデルケースになればと前向きに考えていたが、この案にすると、これまでの話し合いが振り出しに戻ってしまった。

- ・ 前回のワークショップで、府相公民館が竹島小学校の敷地へ移設し、建て替わることで今後の公共施設の再編のモデルケースとなるということをせっかく前向きに検討できればと考えていたので、この案にすることでそれらの話し合いが振り出しに戻ってしまった。

東部保育園については、住まいの小学校区から別の小学校区に移転することで、安全面の懸念や保護者の送迎の負担がかかり望ましくない。特に、子どもたちを同じ学校区内の小学校と保育園に通わせている保護者は、学校区が異なることで送迎の負担が大きくなってしまう。保育園と小学校は、同じ場所にある方がよい。

- ・ 東部保育園を竹島小学校の敷地に移すと、学校区が異なってしまう、東部小学校と新たな東部保育園に通わせる保護者は送迎等で大変になってしまう。東部保育園はそのまま東部地域にあってほしい。

- ・ 保護者の負担を減らすには保育園と小学校は同じ場所にある方がよい。東部地域を例にすると、園児は東部保育園（竹島小に移転）、児童は東部小（現在の位置）となり、保育園と小学校がバラバラになる。竹島地区だと園児は府相保育園（竹島小に移転）、児童は竹島小（南部小に移転）と、こちらも保育園と小学校がバラバラの立地になるので、A案では保護者の送迎の負担が大きい。
- ・ 東部保育園に通う園児の多くは東部地域に住んでいるので、東部保育園が竹島小学校に移転するのは、保護者の送迎の負担を考えるとよい策ではない。
- ・ 保育園は身近な地域内にある方が保護者が安心できる。東部保育園を竹島小学校跡地に移すと地域から遠くなりすぎる。東部地域から移動しないでほしい。

南部小学校と南部保育園が近い位置にあるため、保護者の負担を考えると、これまでよりさらに南部保育園に園児が集中することが予想される。敷地は十分に確保できるのでしょうか。

- ・ 南部小学校と南部保育園が同じ場所になるために、この保育園に園児が集中することが予想されるが、敷地は十分にあるのであろうか。

子育て層は子どもを竹島小学校に通学させることを見越して、竹島小学校周辺に新しく戸建が建築し、引っ越してきている。竹島小学校が南部小学校に移転することをその方たちはどう思うかが心配である。また、南部小学校に統合されることで、その周辺はマンションが建つなどまちの様子も変わるだろう。市としてこのようなまちの変化も見越して統合を考える必要がある。まちづくりの視点でも考えていかななくてはならない。

- ・ 竹島小学校周辺にだいぶ戸建が新しく建築されている。若い子育て世代が子どもを竹島小学校に通学させることを見越して引っ越してきていると思うので、その方たちが南部小学校に通うことをどう思うかである。また、南部小学校に統合されたら、南部小学校周辺にマンションが建つなどまちの様子が変わるだろう。市としてこのようなまちの変化も見越して統合を考える必要があると思う。再編だけでなく、まちづくりの視点でも考えていかななくてはならない。

3) B案

【期待】

南部小学校が竹島小学校へ統合されたら、現在の南部小学校は、駅の近くであることから跡地については、A案よりもさらに有効活用することができるだろう。豊橋市のココニコのような子育て機能を集合させて複合施設として整備することはできないだろうか。駐車場を整備した上で、何か特色のある施設ができるとよい。

- ・ 南部小学校が竹島小学校へ統合されたら、現在の南部小学校は、駅の近くであることから跡地をA案よりもさらに有効活用することができると思う。豊橋市のココニコのような子育て機能を集合させて複合施設として整備することはできないだろうか。小学校跡地で駐車場を整備した上で、何か特色のある施設ができるとよい。

小学校の統合は、公共施設面積の縮減の観点や部活動などの教育環境維持の観点からも必要なことである。配置バランスを考えると、竹島小学校に統合することが自然だと思うが、あくまでも判断基準のひとつではある。

- ・ 小学校の統合は、公共施設面積の縮減の観点や部活動などの教育環境維持の観点からも必要なことである。中央小学校も含めた配置バランスを考えると、竹島小学校に統合することが自然であると言える。ただし、配置バランスというのは判断基準のひとつであるため、南部小学校への統合を否定するものではない。

【懸念】

南部小学校の敷地に多くの機能が集合する案となっているが、全ての機能が敷地内に収まるのかが心配である。手狭な施設となり利用しづらくなることは避けたい。機能に応じたスペースの確保をしてほしい。

- ・ 南部小学校の敷地に多くの機能が集合する案となっているが、面積的に可能なのか不安である。手狭な施設となり利用しづらくなることは避けたいため、機能に応じたスペースの有効利用を考慮した検討をすべきである。

4) C案

【確認したいこと】

南部小学校の敷地に保育園や、将来的には蒲郡公民館も集合する案となっているが、現在の小学校の敷地内で収まるのか心配である。保育園も公民館も駐車場を必要とする施設であるため、小学校に隣接する“蒲南の森”の敷地を活用するなどしないと実現が難しいと思う。どのように考えているのかを知りたい。

- ・ 南部小学校敷地に保育園や将来的には蒲郡公民館も集合する案だが、現在の南部小学校敷地で収まるのか心配に思う。特に、保育園も公民館も駐車場を必要とする施設である。小学校に隣接する「蒲南の森」の敷地を使うなどしないと実現が難しいと思うのだが、どのように考えているのか。

5) D案

【期待】

府相保育園の園児の多くは竹島小学校の学校区内に住んでおり、竹島小学校に保育園の機能が集合するのは、保護者の送迎などを考えても負荷が少なくよい。

- ・ 府相保育園の園児の多くは竹島小校区に住んでおり、竹島小学校に移転するのは、保護者の送迎などを考えても負荷が少なく良い。

6) A案・B案

【確認したいこと】

今回の市からの説明（学校規模についての法令上の規定等の説明）では、小学校のク

ラス数は12～18学級が標準とのことだが、単純に南部小学校と竹島小学校を統合すると24クラスとなる。統合する場合、このクラス数について、市はどのように考えているのかを知りたい。また、統合をした場合、それだけの児童を収容できる校舎と運動場を確保しながら、公民館と児童クラブの機能も集合することが可能なのだろうか。きちんと敷地の検討した上で案を出しているのか教えてほしい。

- ・ 学校規模についての説明があったが、市としては「学校規模の適正化の方針」はまだ作成していないということであった。そうだとすれば、クラス数については文部科学省の手引きに示している12～18学級を基本とするのが適切と考えるが、単純に南部小学校と竹島小学校を統合すると24クラスになってしまう。これについて市はどのように考えているのかを聞きたい。また、たとえ、それが解決したとしても、それだけの児童を収容できる校舎と運動場を確保しながらも、公民館と児童クラブの機能も集合することが可能なのだろうか。きちんと敷地の検討した上で案を出しているのか教えてほしい。

7) A案・C案

【期待】

小江公民館は譲渡を含めて活用方法を検討するのであれば、老朽化が進んでいることから市は、耐震補強や改修をしてから地域へ譲渡してほしい。

- ・ 小江公民館は建物が古いので、譲渡を含めて活用を検討する際、この機会に市に耐震改修をしてほしいと地域は考えている。

8) A案・B案・C案

【懸念】

同じ学校区内の保育園と小学校の立地については、どちらかを異なる学校区に移さずに、同じ学校区内で機能を集合させた方が、保護者の送迎面等で便利であるし、安心もできてよい。

- ・ 同じ学校区内の保育園と小学校の立地は一緒の方が、送迎などで親は便利で安心できて良い。

9) B案・C案

【懸念】

現在でも南部保育園は定員に達しており、手狭だと聞いている。南部保育園に府相保育園が統合されることで、全ての園児を受け入れることはできるのだろうか。受け入れ可能だとしても、園児が多すぎるのはサービスの質の維持が難しいのではないか。

- ・ 南部保育園に府相保育園が統合されることになっているが、現時点でも南部保育園は定員に達しており、手狭だと聞いている。府相保育園の園児を受け入れることはできるのだろうか。園児が多すぎるのはサービスの質を維持することを考えても難しいのではないか。

府相保育園の園児の多くは竹島小学校区に住んでいるので、保育園が南部保育園に移転するのは、保護者の送迎の負担が増えるので良い策ではない。特に、竹島小学校区で小学生と保育園児を持つ保護者は、学校区が異なることで送迎の負担が増えることになるだろう。

- ・ 府相保育園の園児の多くは竹島小学校区に住んでいるので、保育園が南部保育園に移転するのは、保護者の送迎の負担が増えるのでよい策ではない。同じ理由で、兄弟がいた場合、上の子（児童）は竹島小に、下の子（園児）は現・南部保育園にとバラバラになってしまい、保護者の送迎がバラバラになってしまうので、よい策ではない。

10) C案・D案

【期待】

小学校を統合しない案は、通学の面では児童の負担もなく、学校区と行政区についても大きな変更が生じないことから、地域の負担もなくてよいと思う。

- ・ 小学校が現在の場所から移転しない（統合しない）のは、児童の通学や学校区の大幅な変更が生じない点で、児童と住民への変更に伴う負担がなくて良い。

【懸念】

公共施設面積縮減などの観点から、小学校の統合が必要であると考えため、C案、D案は、好ましくない。

- ・ 公共施設面積縮減などの観点から、小学校の統合が必要であると考えため、C案とD案は、案としては好ましくない。

11) B案・C案・D案

【期待】

東部保育園、東部小学校、東部公民館はもともと近距離で東部地域としてまとまりがある。保育園と小学校がバラバラになることで、送迎の負担となるといったデメリットがなく、むしろ機能を集めることで便利になるのでよいのではないかと。

- ・ 東部保育園、東部小学校、東部公民館はもともと近距離で東部地域としてまとまりがある。この案は保育園と小学校がバラバラになり送迎の負担となるといったデメリットがなく、むしろ機能を集めることで便利になるので良いと思う。

12) その他

複合施設を建設する際は、それぞれ集約する機能の面積を十分確保できることを確認した上で進めてほしい。また、小学校建替え期間の暫定校舎や運動場についても、教育環境に悪影響がないよう、現在同様の空間を確保してほしい。

- ・ 小学校の建て替え期間の仮校舎、運動場については、これまで同様の空間を確保するようしてほしい。児童の教育環境に悪影響があってはならない。

- ・ 施設の複合化をする場合、それぞれに必要な敷地面積は十分に確保されていることが確認できているのか（校庭や各施設の広さは確保できるのか）。確認が必要である。

東部小学校の建て替えの際には、校舎と体育館の間にある道路の付け替えなどを検討すべきである。

- ・ 東部小学校の建て替えの際には、校舎と体育館の間にある生活道路の付け替えなどを検討すべきである。

公民館運営の人員が不足しており、施設の維持管理はどの地域でも大変な状況である。運営面で文部科学省から表彰されている形原公民館など、参考にしていきたい。

- ・ 公民館運営の担い手、人員が不足しており、維持管理はどの地域でも大変な状況にある。形原公民館が文部科学省から運営を表彰されているので、参考になるかもしれない。

各案については、コスト比較を提示してもらった上で検討したい。

- ・ 次回は、検討材料として、各案のコスト比較が必要である。

2. 評価の視点

1) 8つの視点について

「①地域での活動・交流の盛り上がり」では、“中高生などの若い世代の集まる場所の整備”の視点のみが世代別では重要であると示されているように感じてしまう。中高生に特化せずに、各世代で集まる場所を整備してほしい。そうしないと地域活動は盛んにならない。

- ・ 中高生などの若い世代の集まる場所についてのみが強く視点の軸として出されているように感じてしまう。世代別で集まる場所を整備してほしい。世代間交流とは別の意味で世代別でも交流できる場所がないと、地域活動は盛んにならないと思う。

「①地域での活動・交流の盛り上がり」では、“中高生などの若い世代の集まる場所の整備”を運営面で具体的に考えると、インターネットに接続できるWi-Fi環境が整っていることや、音楽演奏やダンスの練習ができる場所などがあげられる。

- ・ 中高生の集まれる場所づくりを具体的に考えると、インターネットに接続できるWi-Fi環境が整っていることや、音楽演奏やダンスの練習ができる場所などがあげられる。

「①地域での活動・交流の盛り上がり」では、公民館でも中学校でもよいので、公共施設で中学生が自由に利用できる場所があるかも重要である。その際、夜間20時頃までは勉強したり、集まっておしゃべりができる場であった方がよいだろう。

- ・ 中学生が自由に利用できる場所が公共施設の中にあるかも重要である。その際、夜間20時までは勉強したり、集まっておしゃべりができる場であった方がよいだろう。必ずしも公民館内にある必要はなく、中学校にそのようなスペースを設置するのもよい。

「③子育てしやすい環境づくり」では、乳幼児・未就園児が安心して身体を使って遊べる環境（場所・広さ）があるかも重要である。

- ・ 乳幼児・未就園児が安心して体を使って遊べる環境（場所・広さ）があるかも重要である。

「③子育てしやすい環境づくり」では、保育園・小学校・児童クラブ等の子育て関連の機能が集約されていて、保護者の送迎が効率的に行えるかなど、アクセス面での利便性も大切である。

- ・ 子育て関連機能が集約されており、保護者の送迎が効率的に行えるかというアクセス上の利便性も大切である（保育園・小学校・児童クラブがセットになっているのが理想）。

「④高齢者のにぎわい」では、高齢者の孤立化を防ぐためにも、高齢者が利用する公民館や地区集会所などの施設まで徒歩で行けるかなど、アクセス面での利便性も大切である。

- ・ 高齢者が孤立しないためにも、高齢者が利用する施設（公民館や地区集会所）が徒歩で行ける場所にあるかどうかも大切である。

「⑤安全の確保（地域防災・利用者の安全）」では、災害時の安全面を考えると、府相保育園を早急に移転する必要がある。どこに移転するかよりも、どれだけ早く移転ができるかの視点が重要になる。

- ・ 府相保育園は災害時の安全面を考えると、早急に移転する必要がある。どこに移転するかよりも、どれだけ早く移転ができるかの視点が重要になる。

「⑤安全の確保（地域防災・利用者の安全）」では、公共施設に利用者が安心して通えるよう、周辺道路などが整備されているかどうかの視点が重要である。

- ・ 利用者が安心して通えるよう周辺道路などが整備されているかどうかは重要であると思う。

「⑤安全の確保（地域防災・利用者の安全）」では、「複合化によって施設の共有が生じた際、セキュリティ（安全）面の配慮がなされているか」は大切である。それぞれの施設は独立し、仕切られていることが理想である。

- ・ 「機能が集合した施設の防犯対策・安全面への配慮がされているか」と重なる内容だが、「複合化によって施設の共有が生じた際、セキュリティ（安全）面の配慮がなされているか」は大切である。それぞれの施設は独立し、仕切られていることが理想である。

評価の視点8つ全てを同じ重要度で考えるのではなく、蒲郡南地区として特に優先すべき視点があるはずである。一番重要に思う視点は、「安全の確保（地域防災・利用者

の安全)」 だと思う。

- ・ 比較案の評価の視点が8つあるが、8つ全てを同じ重要度で考えるのではなく優先する視点があるはずである。一番重要に思う視点は、“安全の確保” だと思う。